

大阪大学工業会海外交流助成金 「渡航報告」

〔学生の部〕

海外渡航報告書

環境・エネルギー工学専攻 澤木研究室

博士後期課程 3年 李 瑾 (LI Jin)

【参加会議】: International Symposium on Urban Planning 2012 (ISUP 2012)

【開催場所】: Taipei, Taiwan

【開催期間】: August 23th (Thu) - 25th (Sat), 2012

国際都市計画シンポジウムは日本、韓国、台湾のそれぞれ各地域の三つの都市計画学会が、上記地域の順序に1年ごとに開催されるシンポジウムである。

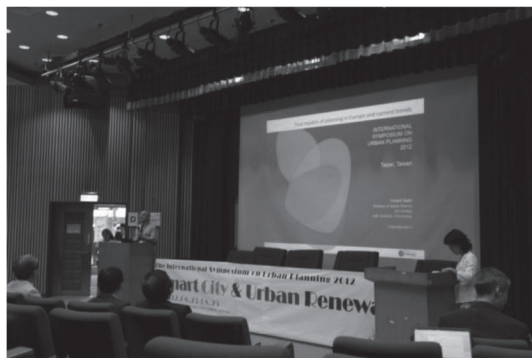
今回私が参加した台湾の台北、国立政治大学にて開催されたのは第19回 Smart City and Urban Renewal というテーマである。都市計画のなかで、17のセッションを仕分け、計68のプレゼンテーションが行われた。

私の発表した論文は「A study on the Regeneration of the Old Factory Site by Art Industry - A case study on M50 Creative Industry Park in Shanghai China-」というタイトルで、創意産業（日本では創造産業として取り扱っている）を使った、都心における旧工場や旧倉庫をコンバージョンすることによる再利用と地域活性化に関する研究である。同セッションでは、台北の事例や中国成都の都市再生事例の発表があり、とても勉強になりました。また、防災に関するセッションでは、現在話題の東日本大震災の発表もあり、意見交換や交流などをして、有用や知見等を得ることができた。

シンポジウムは論文発表以外に、台北市の観光が設けられ、“Taipei Flower Expo”や“Tamshui Old Street (淡水老街)”などの観光場所を訪れ、また、華山 1914 という創意園區にてシンポジウムの閉会式を行い、この場所は自分の研究と関係のある場所であり、台北の創意産業の事例を見学することができ、とても良い経験となりました。

今回のシンポジウムで、日本、台湾、韓国の先生や研究者、学生たちとの交流ができ、それぞれ違った分野での都市計画に対する知見を得ることができ、とても勉強になった。

最後に、この度の国際学会参加にあたり、海外交流助成金を援助していただきました大阪大学工業会に深く感謝の意を表します。



シンポジウムの様子

海外交流助成金「渡航報告」は、提出されたままを掲載しております。

海外渡航報告書

大阪大学大学院工学研究科
機械工学専攻 金子・東森研究室
博士後期課程 3 年
Ramirez Alpizar Ixchel Georgina

【参加会議】 2012 IEEE International Conference on Automation Science and Engineering (CASE2012)

【開催場所】 Grand Hyatt Hotel, Seoul, Korea

【開催期間】 August 20-24, 2012

CASE はアメリカ合衆国に本部を持つ電気・電子技術学会(IEEE)の国際会議であり、今回は韓国のソウルで開催されました。世界 32 カ国, 300 人以上の研究者や学生参加し, 5 日間にわたって口頭発表, ポスター発表, ワークショップ, 企業の展示会やツアーが実施される国際会議であります。

私は会議 4 日目の午後に“Non-prehensile Manipulation on Smart Surface”という Special session で“Estimation of a Thin Flexible Object with Bipedal Gaits”と題した口頭発表を行いました。発表の内容はプレートでの非把持形態のダイナミックマニピュレーションによる柔軟物体を回転させ, 柔軟物体の回転速度に着目して, 柔軟物体の物理パラメータを推定するについて, 発表時間 15 分, 質疑応答が 5 分の合計 20 分が割り当てられました。今回は Special session であったため非把持マニピュレーションについて詳しい研究者がいて, 貴重な質問, 意見やコメントをいただくことができて, とても良い経験となりました。また, 有名な研究者の講演会を聞くこともできたので非常に有意義な学会でありました。

最後に, この度の国際学会参加にあたり, 海外交流助成金を援助していただきました大阪大学工業会に深く感謝いたします。



学会会場の講演室内

海外渡航報告書

大阪大学工学研究科 応用化学専攻
機能有機化学領域 平尾研究室
博士後期課程 2 年 宮坂彰浩

【参加会議】 International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2012)

【開催場所】 Lisbon, Portugal

【開催期間】 September 2-7, 2012

大阪大学工業会海外渡航助成の支援を受け、2012 年 9 月 2 日から 6 日まで、ポルトガルのリスボンで開催された International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2012) に参加した。ICOMC は有機金属化学および、その有機反応化学への応用に関する国際会議であり、六日間を通し 400 件を超えるオーラルプレゼンテーション、600 件のポスタープレゼンテーションが行われた。

私は、会議五日目に“Catalytic Cross-Pinacol Coupling Reaction Using Dinuclear Hemisalen Complex”(「二核金属触媒を用いた還元的クロスカップリング反応の開発」)と題したタイトルでポスタープレゼンテーションを行った。この日リスボン市内は非常に暑く、皆汗だくになりながらも活発な意見交換を行った。討論では密度の高く充実した時間を過ごせたとともに、今後の研究に対するモチベーションアップにもつながった。

また、エクスカッションや学会の空き時間を利用し、リスボン市内や周辺を観光した。リスボン近郊の観光は、ユネスコの世界遺産に登録されているジェロニモス修道院やシントラの文化的景観、またユーラシア最西端のロカ岬など非常に充実しており、ヨーロッパの歴史や文化を感じることができた。

最後に、この度の国際学会参加にあたり、本海外交流助成費用をご援助頂きました大阪大学工業会に深く感謝致します。



ポスター会場



ジェロニモス修道院



ロカ岬

海外渡航報告書

大阪大学大学院工学研究科
生命先端工学専攻
博士後期課程 2 年 太農 哲朗

私は 2012 年 11 月 4 日～ 8 日に香港にて開催された第 6 回アジア生物無機化学シンポジウム(The 6th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference)に参加した。本会議では化学をはじめ環境科学から生物学、薬学など生物無機化学を土台とする幅広い研究分野を対象として各国の大学の研究者らを中心に 5 日間にわたって活発な口頭発表、ポスター発表が実施される大規模な国際会議である。その中で私は「O-O Bond Cleavage of Alkyl Hydroperoxides by Copper Complexes」というタイトルで、単核銅錯体による過酸化物の活性化機構に関する研究成果をポスターで発表した。ポスターセッションにおいては、海外の研究者の方から様々なご指摘やコメント等をいただき、たいへん勉強になった。また、英語でのコミュニケーションの大切さを痛感した。積極的に他の研究者のポスターにも質問をしに行ったり、関連分野の先生の口頭発表を拝聴したが、英語が話せれば、また聞き取ればもっと深い議論ができたのではないかと少し悔やまれた。しかしながら今回の学会は、普段日本国内の大学内のラボですっと研究しては狭くなりがちな視野を広げてくれる良い機会となったし、世界の中での自身の研究の位置づけや自身の英語コミュニケーションの至らなさ(学会会場以外の生活の場面でも)を知ることができ、多いに刺激的だった。これをモチベーションにまた日々の研究活動に励もうと思う。



写真 1: ポスター発表



写真 2: 学会会場

最後に、今回の海外渡航・国際会議参加にあたり海外交流助成金を援助して下さいった大阪大学工業会に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。